



今日から運用が変わります！

【防災気象情報活用する組織向けのご案内】
～施設、学校、企業、自治体等の防災担当者の方へ～

令和8年より 気象の警報などが 大きく変わります

情報名称などが大きく変わるため、
防災計画等の点検や見直しをお願いします。

警報レベル	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮
警戒レベル5 特別警戒	レベル5 氾濫特別警戒	レベル5 大雨特別警戒	レベル5 土砂災害特別警戒	レベル5 高潮特別警戒
警戒レベル4 4相当	レベル4 氾濫特別警戒	レベル4 大雨特別警戒	レベル4 土砂災害特別警戒	レベル4 高潮特別警戒
警戒レベル3 3相当	レベル3 氾濫警戒	レベル3 大雨警戒	レベル3 土砂災害警戒	レベル3 高潮警戒
警戒レベル2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報
警戒レベル1	早期注意情報			

「警戒レベル4相当」の情報は「危険警報」として発表されます
①危険な場所から避難が必要な状況であるレベル4相当の情報が「危険警報」として発表されます。
【変更例】
(旧)「土砂災害警戒情報」
→(新)「レベル4土砂災害危険警報」

「警戒レベル4相当」の情報は「危険警報」として発表されます
②危険な場所から避難が必要な状況であるレベル4相当の情報が「危険警報」として発表されます。
【変更例】
(旧)「土砂災害警戒情報」
→(新)「レベル4土砂災害危険警報」

「警戒レベル4相当」の情報は「危険警報」として発表されます
③危険な場所から避難が必要な状況であるレベル4相当の情報が「危険警報」として発表されます。
【変更例】
(旧)「土砂災害警戒情報」
→(新)「レベル4土砂災害危険警報」

「警戒レベル4相当」の情報は「危険警報」として発表されます
④危険な場所から避難が必要な状況であるレベル4相当の情報が「危険警報」として発表されます。
【変更例】
(旧)「土砂災害警戒情報」
→(新)「レベル4土砂災害危険警報」

避難のタイミングは レベルで判断

災害が起きる前に何をすべきか、
レベルごとにチェック！

時間推移のイメージ ↓ 災害発生

- 数日～1日前: **レベル1 早期注意情報** ・災害への心構えを一段高める
・職員の連絡体制を確認する
- 半日～数時間前: **レベル2 注意報** ・ハザードマップ等で災害リスクを再確認する
・自治体から発表される避難情報の把握手段を再確認する
- 数時間～3時間前: **レベル3 警報** ・避難に時間がかかる高齢者等は危険な場所から避難する
・高齢者等以外の人も必要に応じて避難の準備や自主避難
- 2時間～0時間前: **レベル4 危険警報** ・危険な場所から全員避難する
※台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了
- 災害発生: **レベル5 特別警報** ・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況
・今いる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する

災害の情報、どう受け取る？

警報・注意報や気象防災速報は、テレビ、ラジオ、インターネット、防災アプリ、自治体の防災無線などを通じて伝えられます。あらかじめ情報入手手段の確認をお願いします。

このあとどうなる？ をチェックしよう

警報等の情報が発表された際には、危険度を地図上に示したキキクルや、今後の危険度の推移を示した時系列情報（明日までの警報等の見直し）などを、気象庁ホームページで確認してください。

▼キキクル画面イメージ 10分ごとに更新される

▼時系列情報（明日までの警報等の見直し）

気象庁は、大雨や河川氾濫などの警報・注意報を再編した新たな「防災気象情報の発表」を5月28日から始めました。災害ごとにバラバラだった名称を統一して、危険度や避難行動をわかりやすく狙いがあります。気象庁では、「高齢者の方はレベル3、それ以外の方はレベル4が出たら避難して欲しい」と呼び掛けています。

避難にあたっては、あらかじめ指定された避難場所へ向かうことにこだわらず、川や崖から少しでも離れた、近くの頑丈な建物の上層階に避難するなど、自らの判断でその時点で最善の安全確保行動をとることが重要です。

レベルの数字と色で、取るべき行動の目安がわかりやすくなっているのがポイントです！

資料は気象庁ホームページより



JTSU は持続可能な開発目標 (SDGs) を
応援しています。

詳細はこちらから⇒

